
恋って・・・愛って・・・？

～ショウカ～

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋って・・・愛って・・・？

【Nコード】

N3120D

【作者名】

くしゅウカく

【あらすじ】

彼氏なんていらなんて思ってた。だけど『マンガみたいな恋がしたい』と夢を抱いてたんだ。そんなこと思っていたら実際にそんな恋になっちゃって…思いもよらないことに…

第1話：友達以上恋人未満

私の名前は

はまだ いちは
濱田一葉

女子高生で・・・性別はもちろん女♪

昔は、よく毎日携帯いじって過ごしていました。

このころは出会い系みたいなサイトで

友達を作って、メールして

ケド会うことはしなかったなあ・・・

まあ基本的に自分は

めんどくさがりやだったわけで

彼氏も欲しいなんて思わなかった（笑）

でもね、彼氏ができるとしたら

「マンガのような恋をしてみたい」

て夢を抱いていたんだ。

けど、今思うと

夢のままでいて欲しかったかな・・・

そう・・・あんな思いしなくなかったから

それは高校2年に上がったころだったかな？

その日もいつものように友達の日記に

コメントしていたんだ。

その際に、私のコメントの下に

なんでか妙に気になる男の名前があって・・・

けど、その日は気にかけたまま寝ちゃたんだ。

翌朝、携帯を開くと

1件のメールが

お相手は・・・昨日気にかけていた人からだった！

その内容は

『お友達になってくれませんか？（＞U＜）』

だった。

私は何のためらいもなく

「いいですよ（^U^）」

と返信をした。

妙に気にかけてはいたのだが・・・

あっちからメールしてくれるなんて

思ってもいなかったから本当は

内心ビックリしていたんだ。

この日は学校があるので

急いで登校した。

教室に入ると、友達きたおかの北岡椿ちゃん

がいきなり

『いっちー「自分のニックネーム」今日北山とメールしたでしょ?』

と聞いてきた。

私は、

『北山?だれそれ??』

と答え・・・

『なら、オーシャンっていう名でサイトからのメール来なかった?』

『あ!』

そう、それは今朝メールをした相手のサイトの仮の名前だったのだ。

『来たでしょ?まだ本当の名前知らなかったのね・・・』

『へえ・・・北山って言うんだね。んで?その人がどうしたの?』

『あのね!うち・・・そいつと親友で今彼女さがしてやってんの・・・』

『ちょい待て!』

私は話の途中なのにとめさせた

『うちは、彼氏いらなくて言ったじゃん！忘れたとは言わせないよ！』

実は自分、3年前に後輩に告白されて

その際付き合って・・・その子はエロい事しか考えてなくて

毎日エロ話ばかりされてトラウマ状態になってしまい

彼氏なんかいらないと決めていたのだ。

『ああ…わかってるけど、実は言うと彼氏欲しいんで…』

『欲しくないってばあ!!』

まったくわかってないみたいだし・・・

そんなことを考えていたのだが

『もうそろそろトラウマ克服しないと社会人になったらやばいぞ！』

後ろから話しかけてきたのは

月野琴美^{つきのことみ}2番目に仲が良い友達だ。

『まあ確かにそうだなあ。。。』

と小声でつぶやく、と・・・

『だったら北山と試しに付き合ってあげてよ！』

と椿が一言。

何でそうなるの！と思ったが・・・

『まあ琴ちゃんのいうとおりヤバイと思うし…考えてみようかね』

と答えてしまった。

このときはいい機会だしね♪

と軽い気持ちで考えていた自分

このときの決断で

未来が大きく変わったのかもしれないね・・・

一通り授業が終わり、学校に帰ってから

携帯を開くと・・・そこには

3件のメールが

お相手は今朝の北山君からだった

『なっなんで3件も・・・???』

ちょっと呆れ顔になりながらもメールを見る

『よっ♪名前なんていうの?』

『もしかして学校では携帯使わないの? (@O@)』

『帰ったらメール頂戴ね (@・U・@)』

なっなっなんて暇な奴なんだ

しかも1時間ごとにメールしてるし

まあとりあえずダチの友達だし、

丁寧に返事するか・・・

『返事遅くなってゴメンね・・・』

学校では携帯いじらないのよ(笑)

うちの名前は 濱田 一葉だよ♪

北山君の下の名前何て言うの?？」

よし♪送信

きつと驚くだろうなあ♪上の名前知ってたことに（ニヤニヤ）

と思っていたのだが・・・

メールがすぐさま来て、見てみると・・・

『まじで?! 学校で携帯いじらないとかスゲー（^^）

かずはって言うんだね♪俺の名前は♪良介！

よろしくね♪かずは♪』

おい!?! 呼び捨てかよ!?!

しかもウチの名前読み間違ってるし・・・

そんな文句をブツブツと言いながら

『すごくないよ（笑）よろしくね北山君♪

けど・・・私「いちは」って名前なの（苦笑）

よく間違えられるから困るんだ（苦笑）

最初に「いちは」だと言ってあげれば良かったな（笑）』

よし♪これでよしと！

それからというもの

北山君とは毎日メールをして・・・

自分と共通点があったり、お互い過去を語りあったりして

親しい仲になっていったんだ。

第1話：友達以上恋人未満（後書き）

つけたしました♪

第2話…会った

それから北山とは毎日メールをするようになり、親しい仲になっていったんだ。

北山とメールをする際に10分くらいメールを返えさないと『早く返してよ』とか『寝たの?』とかひつこくメールしてきたなあ…

でもそんなこと2度と言われないように頑張っただけでメールしていたかも(笑) 自分このころ単純でしたよ(笑)

それからずっとメールをしてたもんだから、どんな人なのかなあ?とかお互い思い始めて…会いたいと思い始めたんだ。

けど、私の場合は恋愛感情まったくなくて興味で会いたいと思ったんだけどね…

それでそのことを北山の親友の椿に報告をして、会ってみようってことになったんだ。

会う当日、椿と合流して会う約束の場所へと向かったんだ。

そして約束の場所に着いて…中坊みたいな男が2人いるのを発見!しかもゲーム(ポケ○ン)してるし!ガキだ!とかバカにしてみました…

その中坊だと思っていた1人目は北山で2人目は…北山の親友の田たぐ口一春君。ちいち はるついでに言うところ一春君は椿の彼氏サン♪♪でも北山はそのことを知らないの。

北山に教えない理由は・・北山に教えた場合、彼女俺だけいないのかよっていじけそうだし、焦って私に彼女になってくれと頼みこんじやいそうだからなんだと・・・

まあその話を聞いたときに、わからない気もしないけど…て納得しちゃいましたよ（笑）

それで私達2人来たのにゲームをずっと続けてて…それを見て椿はキレて『来たのにそんな態度していいと思ってるんですか？』と言い放ったの。

すると北山はゲームを止め、椿に手招きを始めた。椿は仕方ないなあと言わんばかりの顔をしながら北山の方へと向かい、北山が椿に小声で話している。

すると・・・

『うちに頼らずさっさと話さんかい！』と北山を椿が蹴り飛ばした！

そして私の目の前に来て…コケタ。

そして北山はすばやく体勢を整えて『ど…どうも（苦笑）』と一言

すかさず私も『ど…うも（苦笑）』と答えた

どちらもたどたどしい…

そこで北山が場所をかえようと提案して、小学校へと向かうことにした。

小学校に着き、体育館の入口付近で座って話すこととなった。

椿と一春君は『私達はお邪魔だと思うから体育館の裏に行くね♪』
と言い裏へと行ったんだ。

その後からは、北山と最初はあまり会話がはずまなかったけど…
時間が経つにつれてどんどん話せるようになったんだ。

それで、このときに北山に誕生日プレゼントを渡したんだ。

何度も言うようだけど…

私はいっさい北山に恋愛感情持ちあわせちゃいない！

だけど、北山が誕生日なんだってずっと前に言ってたから

なんとなくダチにプレゼントやる感覚であげちゃったんだ。

だから北山誤解しちゃって・・・

これは脈ありかなって勘違いしたんだろうね。

『メールでも言ってたけどさ、彼氏作るきないの??』と聞いてきたんだ。

私は、『うん。トラウマだから無理だわ・・・』と答えた。

北山はガツカリしたように『そうか・・・』と答えてたかな？

それで…このときに諦めてくれたんだって勝手に私は思ってたんだ。

北山は諦めるなんか言わなかったのに・・・

第2話：会った（後書き）

更新遅れました。すいません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3120d/>

恋って・・・愛って・・・？

2010年10月20日05時54分発行